



表紙
小林英樹 《不思議な植物》
1988年

表紙絵解説

小林英樹

大阪から札幌に移って間もない時期、3月にアートプラザというギャラリーから企画展の話が舞い込んできた。三室すべて使い6月下旬開催、制作期間は極端に短い。ぼくは無我夢中で120号と100号ばかりで二十数枚を描いた。画布を張り、ジェッソで地塗りをし、その上にアクリル、ウレタン、シリコンの合成樹脂の下塗りをしたキャンバスに、想起するものを、何も考えず、順番に描いていった。トンネル、海、空、野原、道、魚群、花、人物など、具象とはいえ、どれもおよそこの世には存在しないようなものになっていた。これはそのプロセスの中で湧き出たもので男女の絡み合いの図である。肉体部分が空間として抜け、周囲の、本来なら余白部分に物質的なフォルムを与えた。その展覧会での共通要素は合成樹脂の物質の表情を生かすことであつたので、油絵などにはない流動的でみずみずしい表現を追究した。具象的要素を出しながら、最終的には塗料の表情表現で終える。すでに30年余り経過するが、絵具の表情は昨日描いたばかりのように新鮮である。まだ寒い春先、有機溶剤の害を最小にするために、常に窓は開け放し、しかし、思えば、かなり無理で危険な制作であつた。